

令和3年6月2日

保護者の皆様

岐阜市立島小学校
校長 宇留野 博美

感染症対策に挑む学校の姿にご理解を（お願い）

向暑の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日ごろから本校の教育活動に対し、ご理解とご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に罹患され、治療生活を余儀なくされた皆様、感染拡大の影響を受け、生活や事業において多大な困難に直面されている皆様に心からお見舞い申し上げます。

国民の命を守るため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止が我が国の最重要課題となり、本校におきましても、子供たちの命や安全を最優先課題として、新しい生活様式の獲得・徹底に向けて、手洗い、マスク着用、密を避ける等の感染防止教育を可能な限り行いながら、また、接触や飛沫による感染リスクが少ない工夫を施した教育活動、そして、教職員による共用利用個所の消毒作業や環境整備、オンライン学習の準備等 ICT 機器の活用習得等、今までに経験したことのない新しい事柄に前向きに挑みながら、日々の教育活動に取り組んでいます。

おかげさまで、ご家庭の皆様の厚いご協力もあり、本校のような大規模校でありながら、今のところ校内での感染がないことに、本校の教育に献身的な対応を下さる保護者の皆様、教職員同僚、そして、地域の皆様に深い感謝を感じています。

さらに、もう一つ大切にしていることは、こうした状況でありながらも、私たち島小学校の教職員が「臨機応変に対応できて変化を恐れない、しなやかで力強い学校づくりを目指し、できる限り子供たちの学びを止めない学校づくり」を大切に、コロナ禍の教育活動に果敢に立ち向かっていることです。

昨年度の臨時休業からの苦心と工夫を糧に、こうした中であっても、本校は、昨年度、地域別授業参観や縦割り行事（ミッション・チャレンジ集会）、全校音楽会（しまっ子ハーモニー）、運動会（スポーツ大会）を、今年度も一年生を迎える会や先日のスポーツ大会も大成功に終えることができました。こうした学校の行事は、多様な他者と協働して創造的に課題を解決する力や、希望や目標をもって生きる態度を身につけていくものとして、とても大切な体験学習ですから、可能な限りの工夫を凝らし、でき得る限りの感染対策を行った上で、何とか子供たちに経験させたいという本校職員の強い思いから実現しています。

残念ながら、ご家庭の皆様に観覧のご案内を差し上げても、その時の状況は、参集が許される状況と成り得ず、私共も、保護者様のお気持ちを察すると遣り切れない思いの状況が続いています。本当に申し訳ない思いです。

さて、先日、今後の水泳授業についても、「近隣の学校は、プール中止の連絡が来ているのに、島小は、いまだに明確にされず困っている。水着の準備もありますから・・・」というお便りを頂戴いたしました。ご迷惑をおかけしています。保護者様のご心配、不安な気持ちももったもなことであること察し、こうして、文章をしたためることとしました。

先ほど申し上げた通り、現在、水泳の授業についても、できるだけ実施できる方向で鋭意検討をしているところであり、現在のところ、中止をするという選択肢は大きくはなっていません。従来の水泳指導に加え、2年ぶりとなる子供の実態を踏まえた指導内容や感染対策を考慮した学習形態を学校内で確認し、水泳の授業における安全指導に加え、授業中の感染対策やマスクの管理、更衣室の安全な利用方法や入水時の子供たちの動きを入念に話し合い、実施できる方法を計画しています。何としても、子供たちに水に触れる経験だけでもさせてあげたいという強い思いです。

ただし、現在は、特措法に基づくまん延防止等重点措置が6月20日までの延長になり、その後の県内の状況が落ち着いた状態となっていることを願いながらの準備段階でありますので、実施時点で、どのような結果（水泳授業を実施するか中止とするか）になるかは、今は、まだ判断する時期ではないと考えております。

こうした学校の状況を、保護者の皆様に十分にご説明することができず、ご心配をおかけしていることとお詫び致します。

私共は、短絡的に「新型コロナウイルス感染症が心配で中止」ではなく、「できる方法を考えて、でき得る施策を十分準備して、動いた上で、それでもできる状況でなければ、やむなく中止する」という姿勢であります。そうでなければ、次につながらないからです。来年になってから、「去年はやっていないから」ではなく、「去年はできなかったけれど、こうした準備をして実施しようとしていた」だから、「今年はさらにこういう工夫を加えて」という状況を創り上げておきたいのです。これが島小の『感染症対策に挑む学校の姿』です。私は、こうした学校体制・職員の意気込みが大好きです。ただし、学校のリーダーとしての校長が、保護者の皆様に対して、こうした「学校の思い」を明確に伝えて来られなかったことに悔悟し、皆様に、今回お伝えすることとしたものです。

今後もしばらくは、こうした不安な時間が続くと思われれます。しかし、先日のスポーツ大会で見せてくれた子供たちの姿は、未来を感じさせる感動的な強い姿でした。どうか子供たちを同じ目線で見守る保護者様と教職員が、不安な状況の中でも互いに信じあい、協力し合う「共育者（同志）」で在って欲しいと願います。

今後についてのご意見にも丁寧にお答えさせていただきますので、ご遠慮なくご連絡をください。子供たちの幸せな日々と未来を願って。